

今月の

ブックトーク

6月「雨の日こそ笑いで気分は晴れ!」

雨の季節ですね。どんよりした天気の日こそ、笑って気持ちだけでも晴れ晴れしませんか？

『おふくさん』に出てくるおふくさんたちは、毎日



服部 美法・ぶん・え
大日本図書

ここに楽しく暮らしています。ある日怖い鬼がやってきました。ところがおふくさんたちはへっちゃらで、怖い顔はつまらないから、いっしょに笑おうと鬼を誘います。しかし鬼

はちっとも笑いません。そこでおふくさんたちは、あの手この手で鬼を笑わせようとして…？笑う門には福来る、鬼を笑わせようとするおふくさんには、こちらも思わず笑っちゃいますよ。

おふくさんたちの変顔に負けないのは、『落語少年サダキチ』の主人公・忠志の顔芸「爆裂フェイス」！怒り爆発寸前の先生や、不良集団をも笑いで撃退するくらいです。

ある日酔っぱらいのおじいさんが若い不良たちに囲まれてピンチのところを、その顔芸で救った忠志。お礼に、とおじいさんに無理やり落語「平林」を聞かされ、落語のとりこになります。そして、ひょんなことからお楽しみ会で「平林」を披露することになります。それが大ウケし大規模な落語会をやらされることに！困った忠志は、落語を聞かせてくれたおじいさんがいたところに行きますが、なんとそこで江戸時代にタイムスリップしてしまいます。さて、忠志の運命はいかに？笑いの絶えない一冊です。

笑いが止まらないのは落語だけではありません。『風にのってきたメアリー・ポピンズ』でも笑いが止まらずヘンテコな出来事が起こりますよ。メアリー・



田中 啓文・作
朝倉世界一・画
福音館書店

ポピンズは、バンクス家の4人の子どもたちのお世話係としてやってきたちょっと風変わりな女の人。風に乗ってやってきて、空っぽのバグから次々と物を出したり、階段の手すりを下から上にすべり上がったり…。4人兄弟の上2人、ジェインとマイケルは彼女をすっかり気に入ります。ある日、メアリー・ポピンズのおじさんの家に一緒に遊びに行くと、おじさんは空中に浮かんでいました。笑い上戸なおじさんは、誕生日が金曜にあたると、笑いガスが体中いっぱいになり笑うと浮かんでしまうのです。下に降りたくても、笑いが止まらず浮かびっぱなしのおじさんを見て、おかしくて子どもたちも大笑い。すると、笑いガスが伝染し、2人もおじさんと一緒に浮かんでしまいました。しかたなくメアリー・ポピンズは、自分もみんなのところにあがってきて、4人は空中でお茶の時間を楽しめます。そのゆかいなこと！他にも不思議で面白いことが次々起こりますよ。

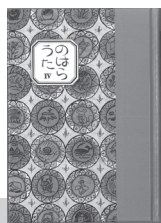
鈴木 千尋／和光小学校学校司書

最後に紹介するのは詩集『のはらうたⅣ』です。「ひなたぼっこ」もいいけれど、「あめふりぼっこ」もいいもんだ、と「あめふり」という詩をよんだのはあめひ



P. L. トラヴァース・作
林 容吉・訳
岩波書店

できさん。かたつむりでんきちさんは「ゆっくりあめのひ」というおもしろい詩をよみました。えっ？雨の詩ばかりじゃ困りますって？



くどうなおこ・作
童話屋

では、にじひめこさんの「にじのもと」という詩はどうでしょう。いきものたちの笑い声とあるのものをまぜると、七色の虹になるそうですよ。

みなさんの笑いで、雨がやんで空に虹がかかるかもしれませんね。

